持続的発展に向けた環境活動

Action for Sustainable Development

江川　英晴
Hideharu Egawa

急激な人口増大や産業の発展により環境破壊が進行し，地球温暖化やオゾン層破壊など地球環境はいまや世界の最重要課題になっており，環境こそが人間活動の基盤であることを認識せざるを得ない状況となっております。

1970年ころまでの環境問題は，生産拠点における公害防止が中心課題でした。今日では，地球温暖化や資源枯渇などを背景に，より大きな視野で環境問題をとらえることが求められています。

1987年，国連の“環境と開発に関する世界委員会”が“持続可能な開発”という考えかたを提唱しました。以来，この言葉は地球環境問題の解決に当たる中心的な理念となっています。刻々と悪化する地球環境を前に，議論よりも具体的行動が大切であり，経済と環境が共生する持続型社会の実現に全力を挙げていかねばなりません。

企業活動には，以下の三つが大切と思います。

一つは，環境管理システムを確立し，環境の負荷低減に向け継続的な改善を図っていくことです。当社は“人と，地球の，明日のために”をスローガンに，“より良い地球環境の実現に努め，良き企業市民として，社会の発展に貢献する”ことを経営理念としております。1989年にはコーポレートレベルの環境管理センターを設置，全社の環境管理システムの整備充実，内部監査や各事業場間TT（Technology Trasfer）によるレベルアップ，従業員の意識高揚などを図ってきました。こうして，昨年1995年度は4工場が，環境管理システムとして世界的な標準といえるBS7750の認証を取得しました。1997年までに国内のすべての工場で認証を取得する方針であります。

二つには，環境問題を克服するための技術開発です。

当社は，1989年に環境技術研究所を設立して基礎技術開発を進めるとともに，生産ライン，製品での具現化を図ってきました。生産面では，1993年末に洗浄用特定フロンを全廃し，翌年は1.1.1-トリクロロエタンもなくしました。いずれも自主目標を前倒しでの達成でした。

製品面では，従来家電製品を中心に実施してきた製品アセスメントを，1993年からは全製品で徹底し，省資源・省エネルギー，リサイクル性向上などに努めてきました。その結果，省エネルギー庁が主催する省エネルギーバンガード21で，1993年 エアコン，1994年 全自動洗濯機と連続して通商産業大臣賞をいただいたほか，ヒートポンプでは日本機械工業会の省エネルギー機器優秀賞を東北電力㈱と共同受賞するなどの成果を出すことができました。今後もライフサイクルを通じて環境調和性に優れた製品を提供することに全力で努めていく所存です。

三つには，環境保全に向けた社会の仕組み作りです。環境問題へは官民を挙げた取組みが必要ですが，当社は家電製品協会の特別事業に廃冷蔵庫の処理システムを提案し，受託研究を進めています。エネルギー効率の良い発電，送電システム，工場・オフィス・家庭の低公害・省エネルギー化，新しい輸送システムの提案など，持続性のある発展のために何をしていくべきか，国や行政にまかせるだけでなく，われわれは率先して責任を果たしていかなければならないと考えております。

“人と，地球の，明日のために”，グローバルな視点で，広範ですばやい活動を展開していく所存です。

代表取締役副社長　Senior Executive Vice President and Director